

質 問 通 告 一 覧

第3回島田市女性議会
平成28年7月30日

島 田 市

◎ 発言順位

				(頁)
1 番	櫻 井	久美子	さん (一問一答)	----- 1
2 番	道 川	綿 未	さん (一問一答)	----- 2
3 番	菱 谷	真美子	さん (一問一答)	----- 3
4 番	青 山	江 湖	さん (一問一答)	----- 4
5 番	兒 玉	絵 美	さん (一問一答)	----- 5
6 番	山 河	美 鈴	さん (一問一答)	----- 6
7 番	馬 場	晶 子	さん (一問一答)	----- 7

1. 1番 櫻井 久美子 さん (一問一答)

1. 児童クラブの現状とこれからについて

私が勤務する金谷小学校区放課後児童クラブでは、50人以上の児童に対して、常時5人の指導員で対応をしていますが、「1人1人の子供と充分に向き合えているか。」「子供の心の声を聞き逃していないか。」など心配になります。また、指導員だけでなく、多くの方が子供たちと関わりをもてたらいいのにと思います。

私としては、児童クラブに預けないで、親の手で子供を育てる環境を作ることが一番と思っていますが、今後、市はどのように考えているかお聞きしたい。

(1) 放課後児童クラブの指導員の人数は充分でしょうか。

(2) 子供達が過ごしているクラブ室の広さは充分でしょうか。

もう少しゆったりと気持ちも体も寛げるようにならないでしょうか。

(3) 地域の方々が気軽に放課後児童クラブで子供達と関わりが持てるようにしていただく事はできませんか。

(4) 児童クラブを作るのではなく、親の手で子育てが出来る環境や支援をすることが一番だと思いますが、今後、市では子育て支援について、どのような計画を考えていますか。

2. 訪問介護を通し、感じたことについて

高齢者の方々と接する仕事をしていますが、本当に幸せだと感じ、安心して毎日を過ごしていられるのか、何が一番の望みなのか、自分が本当に支えになってあげられているのか自信がありません。ご近所との関わりも薄くなって孤立している方もいらっしゃるの、このままの状況では心配です。

(1) ご近所同士の声かけや見守りなど、地域のネットワークが希薄になっており、高齢者が孤独な生活を送っているように感じます。地域での取り組みの現状について教えてください。

(2) 町内、隣組など、地域での声かけ、見守り等が盛んに行われる地域になるための取り組みをしていただけないでしょうか。気持ちはあっても何からしていいか、どこまでなら踏み込んでいいかわかりません。1歩でも踏み出す事が必要だと思います。

2. 2番 道川 綿未 さん (一問一答)

1. 移住・定住の推進について

現在、全国的にも地域活性化の手段として、移住定住促進の施策が進められている。私も島田市に移住して4年目となるが、移住・定住後に地域のコミュニティとどのように関わっていきけるかが大事である。

私は、地域おこし協力隊という形で移住したことに加え、近隣の方にも恵まれ、スムーズに地域の方と関わり合いを深めることが出来たが、今後増えることが予想される移住者のためにも、きちんとした受け入れの仕組みづくりが必要である。島田市の各地区で独自ルールや文化もあり、明文化は難しいと思うが、日々を暮らしていく中で、移住者と地域住民がお互いにボタンのかけ違いがないようにしていく必要がある。

- (1) 島田市への移住を促進する目的・目標について
- (2) 移住後の地域コミュニティと関わっていく上で、地域側としてどのような支援・受入態勢が整っているのか。またどのような受入体制が必要だとお考えでしょうか。
- (3) 他地域では移住者を巻き込み、積極的にまちづくりに関わってもらい、地域住民とともに地域活性化への一端を担っている例があります。島田市でもそのような流れを作っていくために、行政の役割をどのようにお考えでしょうか。

2. インバウンドの市場変化と、ニーズへの対応に関して

現在、インバウンドの市場が、爆買ブームから、個人旅行者の長期滞在型へ移行しつつあるという見方があり、笹間地区で行っている陶芸フェスティバルやアーティストインレジデンスを通して、外国人の日本文化へのニーズの高まりを感じる。一方、東京や京都などの大都市の情報に比べ、地方都市の情報を手に入れることは難しく、実際に訪れるまで、こんなに魅力的な地域があることを知らなかったという声を聞く。今後のインバウンドビジネス、特にニーズの高まりつつある中山間地域においてどのような対応をしていくのか。

- (1) 長期滞在型へと移り変わりつつある現在のインバウンド市場に対し、島田市はどのような対策をされていますか。
- (2) 外国人観光客は日本人と比べ、島田市に対する知識が少ないと思うので、誘致するためには、他地域と差別化し、島田市の魅力を判りやすく伝える必要があると思いますが、他地域にはない島田市の魅力となるものに関して、どのようにお考えですか
- (3) 笹間地区を訪れた外国人にヒアリングしたところ、古民家や山村文化などに大変興味を示していた。このように今まで観光資源とされてこなかった地域資源を新しい視点で活用することに関し、どのようなお考えでしょうか

3. 3番 菱谷 真美子 さん (一問一答)

1. 公民連携によるまちの活性化について

人口減少が進む中、就労人口を増やし、商業を活性化することは市の大きな課題であると思います。

私は、今年5月から市内でシェアショップ、コミュニティカフェという取り組みを仲間と共に始めました。

プロジェクトの要(かなめ)は若者や女性等に自分の得意を生かして、魅力あるスクールやイベントを皆で作りに上げていくことです。

今後は、そこで作り上げた人的ネットワークを生かして、例えば、新規出店や起業するために必要な場を提供すべく、空き店舗を活用したりノベーションにも取り組みたいと考えております。

以前、駅前公園を借りようとした時、収益性のある事業という理由で、借りることができず、行政との壁を実感しました。

そこで、日頃から感じている行政と民間との連携について、以下のとおり質問します。

- (1) 遊休不動産や空き店舗を活用したシェアスペースやコミュニティカフェなどの起業や経営に関して、市はどのような取り組みを行っていますか。
- (2) 道路、公園及び公共施設など、市が所有するものを市民活動だけでなく、ビジネスにも活用するような考えはありますか。

2. まちなみのデザインについて

島田駅から街並みを見通した時、建築物やサインの色彩がバラバラで調和がとれていないと強く感じます。

- (1) 島田市として、景観的な基準をどのように設けていますか。

「おびりあ」、「歩歩路」の外壁看板やサイン、「駅前公園」のオブジェに関しては、周囲との調和がとれていないだけでなく、デザイン的な魅力にも乏しいと思います。こうしたサインのデザインについて、市はどのように考えていますか。

4. 4番 青山 江湖 さん (一問一答)

1. 新たな交通手段「L R T」導入の提案について

車に依存する社会を変え、お年寄りの車運転による事故の増加、交通弱者のためのアクセス改善、環境問題、若者流出による人口の減少、これらの問題を一気に解決できるのが、L R Tだと考え、導入を提案します。

- (1) 島田市の中でバス交通が特に不便だと思われる地域はどこですか。また、外出するための手段がない人々や買物弱者のため、対策は何かされていますか。
- (2) 若者の流出や人口減少の対策として、バス交通の面で島田市ではどのような取り組みがされていますか。

5. 5番 児玉 絵美 さん (一問一答)

1. 地域固有の子どもの教育について

全国的に抱える課題である少子化や人口減少問題は島田市においても同じ課題である。生まれてくる子どもを増やすことも大事だが、島田市に生まれた子ども達に対して、学校と地域が連携して地域固有の教育の場を作ることや、地方にいながらも最先端の教育の場を作ることが重要であり、このような取り組みを長期的視点で行っていくことが少子化や人口減少という地域課題を解決していくのではと考えている。

文部科学省が発表している現在の教育の主な課題の中で、新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方が問われている。島田市における具体的な取り組みはあるのか、既に行われているとしたらどんな効果、課題、今後の展望についてお聞きしたいと共に、地域側からの意見として、もっと地域が学校に関わり、学校が地域に関わる取り組みや仕組みの在り方を模索していけないか提案したい。

- (1) 島田市において、学校教育と地域の連携・協働した取り組みはどんなものがあるのか、またその取り組みにおける、効果、課題、今後の展望は。
- (2) 学校と地域が新しい関係を築き相互補完的に連携、協働することが必要だと考えるが、島田市において、子ども達の学びのために学校と地域の共有した目標は設定されているか。
- (3) 「地域の学校」、「地域で育てる子ども」の実現が必要だと感じるが、学校教育側から地域へ求めるものは何か。
- (4) 島田市におけるコミュニティスクールの導入の予定はあるか。あるとしたら、具体的な内容や時期、ないとしたら、導入しない理由や課題は何か。

6. 6番 山河 美鈴 さん (一問一答)

1. 島田市の介護保険について

新たな介護保険制度により、補足給付を受けられる条件が厳しくなり、特別養護老人ホームからの請求額が増え、その家族の生活をも金銭的に脅かされているという趣旨の記事をネットニュースで読みました。

その土地、各個人の生活様式にもよるとは思いますが、少子高齢化と叫ばれる今、日本でこうした事態に陥っている現状は真摯に受け止めなければならない事だと思いました。

少子高齢化に伴い、今後社会保障に巨額の費用がかかる。しかし、その財源の確保が追いつかないという現状にある中で、自分たちの親世代や自分たちの世代が介護を必要とする時、ちゃんとした社会保障が受けられるのかと不安に思う。

高齢者になっても、本人やその家族が、不安のない、人間らしいいきいきとした生活をおくれるような社会を望んでいます。

島田市の介護保険をはじめとする高齢者福祉について伺います。

- (1) 島田市の高齢者と介護保険の現状について
- (2) 国の政策だけに頼るだけでなく、私たち一市民にできることはないか。
- (3) 今後の島田市における高齢者福祉の計画について

7. 7番 馬場 晶子 さん (一問一答)

1. 高校生以上の子どもへの市の取り組みについて

義務教育後の子どもには児童手当などの手当が無くなりますが、高校の学費などお金はますますかかるようになります。何か支援はありますか。

高校生以上にも目を向けてください。

- (1) 高校生以上の医療費助成について
- (2) 投票できる年齢が18歳となり、高校生への対策は。
- (3) 島田市内に大学や専門学校を作るプランはありますか。
- (4) 20歳までの母子家庭医療費助成について、22歳の大学在学中まで引き上げられないでしょうか。

2. 若者が島田市に住む環境について

待機児童ゼロの取り組みという話はよく耳にしますが、それ以前の問題として、若者が島田市に住む環境が整っていますか。

- (1) 島田市近郊の就職について
- (2) 県外の大学に進学した島田市出身者が地元に戻って働きたいと思える環境作りはありますか。
- (3) 高校生の頃から、市民活動に参加できるようなプランはありますか。
- (4) 島田市に住みたくなるアピールをしていますか。